

の音が今も耳に残っている。

〔参考文献〕 1) FAO: Forest resources of tropical Africa, Part I, Regional Synthesis, 1981 2) FAO: Forest resources of tropical Africa, Part II, Country briefs, 1981 3) ディディエ ノイマン: 熱帯の森林と木材, 白水社, 1984 4) 二宮道明: データブック オブ ザ ワールド, 二宮書店, 1989 5) USAID: Situation Actuelle de L'Agriculture Zairoise, 1987, Departement de l'Agriculture et du Developpement Rural 6) K.S. Adam and M. Boko: le Benin, SODIMAS/EDICEF, 1983 7) Unite de Recherches Forestieres (UDRF): Rapport annuel campagne, Direction de la recherche agronomique, 1988

---

## 新刊紹介

◎グリリシディア: 生産と利用 (Gliricidia: Production and Use. GLOVER, N., ed., Panel of Authors: J. BREWBAKER, *et al.*, v + 44 pp., 1989, NFTA, P.O. Box 680, Waimanalo, Hawaii 96795 USA, 6 US\$ (会員 5 US\$)

1987年にコスタリカのCATIEで行われたワークショップの成果品として作られた実務マニュアルである。表題のGliricidiaは*Gliricidia sepium*の英名として用いられており、この樹種の特長、育て方、利用法が、次の9項にわけて簡明にまとめられている。1. 植物学(樹木の記載、分類、分布)と生態、2. 増殖(種子、育苗)、3. 生け垣、4. 庇陰樹と支柱、5. alley farming(作物との交互筋植え)、6. かいばとしての利用と生産、7. 材の利用と生産、8. その他の利用法、9. 種子生産。本種の天然分布地は湿潤気候から半乾燥気候とされているが、かなりの乾燥条件に耐えてよく生長することが知られるようになり、増殖しやすいことと相俟って、いわゆる多目的樹種の中でも最有力視されつつある。淡いピンク(基部に黄色斑)のきれいな花をつけ、景観的な価値も高いが、一部の地域では蜜源植物としても使われている。牛、山羊などにはよい飼料になるというが、ラテン名はgliri = mouse, cide = killerだそうで、殺ソ成分を含んでおり、殺虫作用もあるという。本誌No. 13(p. 25)にこのワークショップのProceedingsについてご紹介したが、この小冊子はその要約といったもので、熱帯造林の現場などで参考にするのに便利である。

(浅川)